

〔国際会議発表〕

発表研究者	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士後期課程 YANG Yifan	2252008
国際会議名	2025 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS)	
国際会議主催者	IEEE Geoscience and Remote Sensing Society (GRSS)	
開催地	オーストラリア / ブリスベン	
渡航期間	2025 年 8 月 2 日～2025 年 8 月 10 日（9 日間）	
発表論文名	Flood Extent Prediction Using Remote Sensing Data Based on Machine Learning and Dempster-Shafer Theory: A Case Study of Nagano City	

〔国際会議の概要〕, 〔参加の目的・意義〕,

〔自分の発表の状況・反応と得られた成果・効果〕

オーストラリア・ブリスベンで開かれた 2025 IEEE 国際地球科学・リモートセンシングシンポジウム (IGARSS 2025) は, IEEE 地球科学・リモートセンシング学会 (GRSS) が主催する, 世界最大規模のリモートセンシング分野の国際会議です。世界各国から約 3000 人の研究者や学生が集まり, 最新の研究成果や技術について話し合う場になっています。

私は東京大学と一緒に進めている「デンプスター・シェーファーを使ったリモートセンシングデータと機械学習による洪水範囲予測—長野市の事例研究—」について発表するために参加しました。この研究では, 複数の合成開口レーダーデータと機械学習モデルを組み合わせ, デンプスター・シェーファー理論で統合することで, 洪水範囲の予測精度を上げてい

ます。都市防災や持続可能な街づくりに役立つことを目指しています。国際会議に参加することで, 自分の研究を世界に紹介し, 海外の研究者から意見をもらったり, 国際的なネットワークを広げたりすることが目的でした。

ポスターセッションでは, 参加者と直接話す機会がありました。ヨーロッパの研究者からは方法について質問され, 改善のアイデアをもらいました。アジアの研究者からはデータの使い方について助言を受け, もっといろいろなデータで試すことを勧められました。連絡先も交換でき, 今後の共同研究のきっかけになりそうです。

この経験を通じて, 自分の研究を国際的な視点で振り返ることができ, 英語で発表したり議論したりする力も伸びました。また, ワークショップや講義で最新の技術や研究動向を学ぶことができ, 今後の研究に役立つ経験になりました。